



## 達成します!モチベーションと効率化

はじめまして。  
令和8年4月から開智総合学院の英語科目担当として仕事をすることになりました。韓国出身のMOON(ムン)と申します。韓国の大学で英語教育を専攻しておりました。

去年の2月に来日し、本日で大阪での生活も13ヶ月半ほどになります。留学やワーホリの経験がないまま正社員として日本での生活を開始することになり、最初は非常に緊張していましたが、大阪の皆様の温かいご配慮のおかげで、今ではずっとここに住んでいるような安心を感じております。

講師としての話をする前に、来日してから今までずっと聞かれる「なぜ日本に来たのか」という質問についてお話ししたいと思います。結論から申し上げますと、私自身も明確な答えは持ち合わせておりません。

選択の理由を明確に話せる場合もありますが、なぜそれを選択したかについて「これです」と話せない選択もあると思います。たぶん一つのきっかけではなく複雑な原因が絡み合っていると思います。

私はソウルで生活していた頃、大学で英語教育を勉強、仕事としても英語講師をした経験があります。その時から私が考えている講師としての主な役割が二つあります。

まずはモチベーションです。私ももちろん昔は生徒でした。「勉強が楽しい」とか考えたことはゼロ!です。「とにかく名門大学に進学しなければならぬ」だけでした。でもそれは目標の提案であり、モチベーションではなかったと思います。生徒の時、頑張ったら具体的に何がいいのか、その説得の過程、それが必要です。生徒自分自身で納得できてこそ、モチベーションは生まれると思います。

しかし、どれだけモチベーションを上げてても結局、内容が過度に難しい時間がかかりすぎるものなら、

やる気は自然に下がると思います。もちろん世の中にはそんな状況でも問題なく全部解決できる天才が存在していますが、すべての生徒がそうではありません。さらに時間とエネルギーも有限です。だからこそ、知識をわかりやすく加工して伝える効率化が私の二つ目の役割だと思っています。

上記の話通り、生徒がハードルを超える理由を作り(モチベーション)最適な越え方を提案する(効率化)、これが開智総合学院の皆様と悩みながら達成したい目標になります。

別途の話ですが、なぜ日本語ができるか!という、軍人だった頃(兵役)、山の中で毎日2時間ぐらい1年間に勉強しました。入隊前にはひらがなもわかりませんでした。毎日少しずつ力がつくのを実感できました。もちろんまだまだですが、学び続ける姿勢を忘れず、より成長できるよう努力いたします。

何卒よろしくお願いたします。



## 大塚のちょっとイイ話

TEACHER'S VOICE

大塚 菜央(今福教室)

### 合言葉は寿司よりマン! で積極性を培おう

これはオーストラリアの小学校での出来事です。当時学生だった私は、オーストラリア人の子供達に日本語を教えるボランティア活動に参加していました。彼らにとって、私はネイティブの日本語話者、つまりはみなさんにとってのシルバ先生やカトリーナ先生、アイラ先生と同じ立場でした。

授業に参加してまず驚いたのは、質問する毎に生徒の9割が挙手すること!みなさんも普段からいっぱい答えてくれています。しかし、9割には届きません。なぜ彼らはこんなに挙手できるのでしょうか?天才なのでしょう?いいえ、普通の子たちでした。彼らは分からなくてもとりあえず手を挙げるのです。そして分からなくても自信満々です。

私はある時気づきました。「みんなやたらSushiって答えるなあ」私がどの質問をしても「Sushi」と答えるのです。「What do you say mother in Japanese?

(お母さんは日本語で何というの?)」「Sushi」「What do you say green in Japanese?(グリーンは日本語でなんていう?)」「Sushi」「What day is it today?(今日は何曜日?)」「Sushi day」…あとで聞いたらこの日は給食で寿司がでる日だそうで、あながち間違いではないかもしれません。彼らは決してふざけているのではなく、本気です。「Sushi」は彼らが唯一知っている日本語なので、言い続けていたらいつか正解するだろう、いつか「米に魚が乗っている日本の伝統的な料理は何でしょう?」のような質問が来るだろう、そんな天文学的な確率に賭けていたのです。

また、彼らの間では「gambarimashita ticket(ガンバリマシタチケット)」と呼ばれる貨幣が流通しており、みんなそれを集めるのに一生懸命でした。カイチキッズ部でも点数券をモチベーションに日々頑張っていますね。ただ、彼らは教師から与え

られるのを待ちません、自分で稼ぎに行くのです。私が通り過ぎると「先生見て!私とっても綺麗に背筋伸ばして座ってるでしょ?……でチケットは?」営業力、すさまじいです。

帰国した私は回転すし屋に駆け込み、回る寿司たちを見ながらこう思いました。「もうちょっと勇気を出してもいいのかなあ」。

皆さんには、日本で培った奥ゆかしさがあります。「分からない時は静かにしておく」「肅々と努力する」素晴らしいと思います。実際、授業が寿司まみれになったら困るので、ありがたいです。しかし、時にはもっと図々しくなってもいいと思います。英検の二次試験では黙る、分からないと言う、よりもはったりで答えることが評価されます。そうした度胸、50%くらいしか分かってなくても手をあげる、勝負強さに注目が集まる時代が来ています。合言葉は「寿司よりマン!」自信を持って、挑戦していきましょう。



発行/株式会社 開智総合学院 〒536-0004 大阪市城東区今福西2-1-8モデラートWASHIMI201 TEL.06-6939-0008

生徒と保護者と先生の共有ニュースレター

# Growing

May 2026  
Vol. 164  
毎月10日発行

【本部】 城東区今福西2-1-8モデラートWASHIMI 201 TEL.06-6939-0008	【今福第2教室】 城東区今福西 2-16-8 TEL.06-6931-2000
【今福教室】 城東区今福西 2-9-20 TEL.06-6934-4662	【関目教室】 城東区関目 4-6-17-2F・3F TEL.06-6934-8117
【諸口教室】 鶴見区諸口 4-14-9-1F TEL.06-6912-3984	【古市教室】 城東区古市 3-21-8 TEL.06-6931-0467
【今津教室】 鶴見区今津南 1-6-2-1F TEL.06-6167-9722	【カイチ予備校】 城東区今福西 1-10-17 TEL.06-6935-2220
【高殿教室】 城東区成育 5-22-10-2F TEL.06-6786-1008	【万緑会】 天王寺区上本町 6-9-10-3F TEL.06-6772-5011
【エニグマ】 中央区谷町 9-4-5-3F TEL.06-6777-1563	【カイコベ】 城東区今福西 3-4-9 TEL.06-6180-6565

## 王子動物園で見た、子供達の“生きる力”



▲ガラス越しのホッキョクグマに大興奮!

4月19日(日)、カイチ恒例の春の遠足を実施しました。今年のは行き先は神戸市立王子動物園。

「動物園か、定番だな」と思われる方も多いのではと心配しましたが、150人以上の参加申し込みがあり、先生を合わせて170名の大所帯となりました。子どもたちの表情、学びの姿勢、そして仲間との関わり方で、教室では見られない一面が次々と現れ、非常に充実した一日となりました。

今回は、当日の様子を振り返りながら、子供達の成長や子供達を取り巻く環境について、私を感じたことをお伝えします。

■オリエンテーション形式で“学び”と“遊び”を両立  
今回の動物園巡りは、ただ動物を見るだけではありません。担当の先生が何度も現地に行って調べ、グループごとに配られた問題を解きながら園内を回る「オリエンテーション形式」を採用しました。

問題は、展示の説明文をしっかりと読まないし解けないよう工夫されており、子どもたちは自然と立ち止まり、読み、考え、話し合いながら進んでいます。

・「この説明、どこに書いてある?」  
・「あ、ここにヒントがある!」  
・「じゃあ次はあっちのエリアに行こう!」

そんな声があちこちから聞こえ、学びと遊びが自然に融合した時間になりました。

さらに、園内のどこかに「隠れている」カイチの先生を見つけると、英語で動物の名前を答える追加問題に挑戦できる仕掛けも。

「隠れキャラ探してみたい!」と子供達は大盛り上がりで、普段は控えめな子ども積極的に動き回っていました。

正直、引率の私も子供達とメッチャ楽しめました。

■動物たちの迫力に大興奮  
動物園に着くと、子供達のテンションは一気に上昇。特に人気だったのはカバとホッキョクグマです。カバの巨大な体を目の前にすると、大人も思わず「おおっ」と声が出るほどの迫力。ホッキョクグマはサービス精神旺盛で、ガラスの近くまで来てくれたため、子供達は大歓声。

「本物を見る」という体験は、やはり特別です。教科書や映像では得られない“生き物の存在感”が、子供達の心に強く刻まれたようでした。

■外に出ると、子供達はこんなに“生き生き”する  
今回の遠足で最も印象的だったのは、子供達の表情の変化です。教室では静かにしている子が、外では驚くほど活発に動き回る。普段は控えめな子が、いやいや外に出るとしっかりしていて、グループの中心になって指示を出す。

仲間と協力しながら問題を解く姿は、まさに“生きる力”そのもの。後半のドッジボールでは、エネルギーは最高潮に達しました。

■判定に不満があれば、審判にしっかり意見を言う  
・仲間が当てられたら全力でフォローする  
・勝っても負けても、互いに応援し合う

こうした姿を見ると、子供達の本質は昔と何も変わっていないと感じます。「外に出ると、こんなに生き生きするんだな」と、改めて実感しました。

■気になる「運動の苦しさ」  
一方で、気になる点もありました。全体的に、昔の子供達に比べて運動が苦手な子が増えている印象があります。背景として考えられるのは、

・習い事で忙しく、外遊びの時間が減った(カイチも原因の一つです…)  
・スマホやゲームの普及で、屋内で過ごす時間が増えた  
・公園での遊びが制限される地域が増えたなど、現代特有の環境です。

しかし、今回の遠足で見たように、子供達の本能は決して失われていません。「思い切り走り回る」「競い合う」「仲間と協力する」こうした体験ができる場を、もっと意識的に作っていく必要があると感じました。

■現代の「窮屈さ」と、子供達の本能  
遠足を通して感じたのは、現代社会の多くの問題は、「ヒトも動物として、何かに閉じ込められている窮屈さ」から来ているのではないかと感じました。

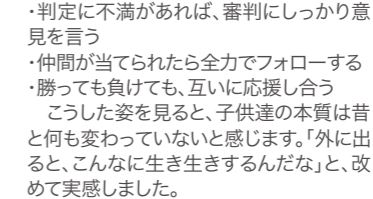
大人も子供達も、予定に追われ、情報に追われ、ルールに縛られ、「本能のままに動く時間」が減っているのかもしれない。

だからこそ、今回のように外に出て、自然や動物に触れ、仲間と走り回る時間は、子供達にとっても、そして私たち大人にとっても、非常に大切なのだと感じました。

■カイチがカイチであるために  
今回の遠足に参加してくれた子供達、そして背中を押してくださった保護者の皆様。そして、遠足を年初から企画してくれた川西先生・小幡先生、そして当日引率してくれた先生方に、心から感謝します。準備も運営も大変ですが、こうした経験こそが「カイチらしさ」をつくり、子供達の成長につながると思います。

学びは教室の中だけで完結するものではありません。外に出て、仲間と関わり、体を動かし、五感を使って感じること。そのすべてが、変化の時代を生きる子供達の未来を豊かにするものだと思います。

今回の遠足は、まさにそのことを再確認できた一日でした。



▲盛り上がったドッジボール大会。優勝は低学年は今福、高学年は諸口教室。

・「この説明、どこに書いてある?」  
・「あ、ここにヒントがある!」  
・「じゃあ次はあっちのエリアに行こう!」

そんな声があちこちから聞こえ、学びと遊びが自然に融合した時間になりました。

さらに、園内のどこかに「隠れている」カイチの先生を見つけると、英語で動物の名前を答える追加問題に挑戦できる仕掛けも。

「隠れキャラ探してみたい!」と子供達は大盛り上がりで、普段は控えめな子ども積極的に動き回っていました。

正直、引率の私も子供達とメッチャ楽しめました。

■判定に不満があれば、審判にしっかり意見を言う  
・仲間が当てられたら全力でフォローする  
・勝っても負けても、互いに応援し合う

こうした姿を見ると、子供達の本質は昔と何も変わっていないと感じます。「外に出ると、こんなに生き生きするんだな」と、改めて実感しました。

■気になる「運動の苦しさ」  
一方で、気になる点もありました。全体的に、昔の子供達に比べて運動が苦手な子が増えている印象があります。背景として考えられるのは、

・習い事で忙しく、外遊びの時間が減った(カイチも原因の一つです…)  
・スマホやゲームの普及で、屋内で過ごす時間が増えた  
・公園での遊びが制限される地域が増えたなど、現代特有の環境です。

しかし、今回の遠足で見たように、子供達の本能は決して失われていません。「思い切り走り回る」「競い合う」「仲間と協力する」こうした体験ができる場を、もっと意識的に作っていく必要があると感じました。

■現代の「窮屈さ」と、子供達の本能  
遠足を通して感じたのは、現代社会の多くの問題は、「ヒトも動物として、何かに閉じ込められている窮屈さ」から来ているのではないかと感じました。

大人も子供達も、予定に追われ、情報に追われ、ルールに縛られ、「本能のままに動く時間」が減っているのかもしれない。

だからこそ、今回のように外に出て、自然や動物に触れ、仲間と走り回る時間は、子供達にとっても、そして私たち大人にとっても、非常に大切なのだと感じました。

■カイチがカイチであるために  
今回の遠足に参加してくれた子供達、そして背中を押してくださった保護者の皆様。そして、遠足を年初から企画してくれた川西先生・小幡先生、そして当日引率してくれた先生方に、心から感謝します。準備も運営も大変ですが、こうした経験こそが「カイチらしさ」をつくり、子供達の成長につながると思います。

学びは教室の中だけで完結するものではありません。外に出て、仲間と関わり、体を動かし、五感を使って感じること。そのすべてが、変化の時代を生きる子供達の未来を豊かにするものだと思います。

今回の遠足は、まさにそのことを再確認できた一日でした。



高木 秀章(塾長)



▲盛り上がったドッジボール大会。優勝は低学年は今福、高学年は諸口教室。

・「この説明、どこに書いてある?」  
・「あ、ここにヒントがある!」  
・「じゃあ次はあっちのエリアに行こう!」

そんな声があちこちから聞こえ、学びと遊びが自然に融合した時間になりました。

さらに、園内のどこかに「隠れている」カイチの先生を見つけると、英語で動物の名前を答える追加問題に挑戦できる仕掛けも。

「隠れキャラ探してみたい!」と子供達は大盛り上がりで、普段は控えめな子ども積極的に動き回っていました。

正直、引率の私も子供達とメッチャ楽しめました。

■判定に不満があれば、審判にしっかり意見を言う  
・仲間が当てられたら全力でフォローする  
・勝っても負けても、互いに応援し合う

こうした姿を見ると、子供達の本質は昔と何も変わっていないと感じます。「外に出ると、こんなに生き生きするんだな」と、改めて実感しました。

■気になる「運動の苦しさ」  
一方で、気になる点もありました。全体的に、昔の子供達に比べて運動が苦手な子が増えている印象があります。背景として考えられるのは、

・習い事で忙しく、外遊びの時間が減った(カイチも原因の一つです…)  
・スマホやゲームの普及で、屋内で過ごす時間が増えた  
・公園での遊びが制限される地域が増えたなど、現代特有の環境です。

しかし、今回の遠足で見たように、子供達の本能は決して失われていません。「思い切り走り回る」「競い合う」「仲間と協力する」こうした体験ができる場を、もっと意識的に作っていく必要があると感じました。

■現代の「窮屈さ」と、子供達の本能  
遠足を通して感じたのは、現代社会の多くの問題は、「ヒトも動物として、何かに閉じ込められている窮屈さ」から来ているのではないかと感じました。

### カイチからの お知らせ

- 5月中旬～下旬にかけて各中学で中間テストが実施されます。それに伴い塾内では定期テスト対策を実施いたします。おお客様の学習の様子に不安があります時は各教室にご遠慮なくご相談ください。
- 5月27日(水)・28日(木)は小学診断テストです。
- 6月5日(金)は珠算・パスカル・トーキングキッズの休講日です。
- 6月6日(土)は全クラス休講日です。

## Focus



## CLASSROOM REPORT 教室レポート

## 大学入試に向けた果てしない戦いは続く

熊谷 真宏(カイチ予備校)

桜の季節も過ぎ、気温的にも過ごしやすい時期になりました。少し前までは夜になるとまだ肌寒くてコートを着て通勤していましたが、今はスーツだけで出掛けられるので身軽になり、気持ちも何だか軽くなった気分です。

さて、大学受験においては年明けから共通テスト→私立大学の一般選抜→国公立大入試の前期・中期・後期試験と3か月に渡り入試が続きました。(厳密に言えば11月の私立大学の公募推薦入試からになるので、実質5か月間に渡ります)高校入試とは違って1日で全員の合否が判明するわけではないので、この間ずっと合否結果にドキドキし続けなければならず、だいぶメンタルが消耗します。これも大学入試指導に携わる者の宿命と言ったところでしょうか。

今年の入試結果を振り返ってみると、まず国公立大の合格者が5名(神戸大学1名、大阪教育大学2名、奈良教育大学1名、徳島大学1名)。これは国公立大を受験したのがそもそも9名と少ない人数の中での結果であり、うち2名は3月の後期試験での合格だったので最後まで本当によく頑張ってくれました。不合格だった生徒についても実力的には十分合格を狙えるところまで来ていたので、最後までもう1歩届かせることができなかったのが心残りです。

国公立大の受験指導をしていて毎年痛感させられるのが「時間の壁」です。特に現役の高3生の場合は入試直前期にグッと伸びる生徒が多いのですが、「あと1か月あれば合格に届いていたかもしれない」という生徒を今まで何人も見てきました。6教科8科目という膨大な科目数をこなさなければなら

ない共通テスト、そして1年のアドバンテージを有する浪人生と互角に戦わなければならない2次試験。この両方でしっかり結果を残すための実力をつけるためにはやはり相應の時間が必要です。これから先、国公立大を目指そうと考えている方にはぜひ早い時期から受験勉強をスタートする重要性を覚えておいてほしいと思います。

そして次に私立大学の結果ですが、関関同立が13名(同志社大学3名、立命館大学2名、関西学院大学3名、関西大学5名)、産近甲龍が19名(近畿大学11名、龍谷大学7名、京都産業大学1名)。総評としては「厳しい」結果だったと言えます。

ご存じの通りこれらの大学群は関西圏において非常に人気が高く、私立大学の合格定員の厳格化等の要因も加わって近年ますます競争が激化しています。その中でも大阪府内にキャンパスを置く関西大学と近畿大学の人気ぶりは凄まじく、特に関西大学の合格難易度が跳ね上がっている印象です。こういった厳しい状況下でも受験生たちをしっかりと合格に導くためには、前年度の入試を分析して各大学ごとの対策をしっかりと練ることが欠かせません。2026年度の入試が終わって少しゆっくりしたい気持ちもありますが、そうこうしているうちに今度は2027年度の入試があと半年後にはやってくるので、万全の態勢で臨めるようにしっかり準備を進めていきたいと思います。

さて、話はガラッと変わりますが、今年も予備校の卒業生が4月からチューター講師として働いてくれています。神戸大学に通う理系科目に強い先生、大阪教育大学に通う教師のたまごの先生、同志社大学に通う紅

一点の先生と、個性豊かなメンバーが揃いました。どの先生も研修初日は緊張して固さが見られたものの、研修を重ねるごとに各先生らしさも出るようになり、すでに頼もしい存在になりつつあります。

そして、そんなフレッシュな後輩たちを優しく見守りながら、時にはしっかりフォローしてくれるのが経験豊富な先輩たち。後輩たちを指導する中で、彼ら自身も「初心に戻って頑張ろう」という気持ちになり、教室にとっても良い雰囲気生まれています。かくいう私自身もまた、彼らの若さとパワーに負けないように教室長としてしっかり先頭に立って頑張っていきたいと思います!



▲新メンバーの山川先生。キュートな笑顔の癒し系担当です!



▲先輩の井上先生と長岡先生。二人とも安定感&amp;信頼度が抜群!

## Education



## KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

## 学校生活を左右する大事な1学期

高木 直也(諸口教室)



▲教室の近くの満開の桜

2026年度がスタートしてはや2か月。学生の皆様は新年度、新生活に慣れ始めた頃ではなかろうかと思います。中学生にとってはこの1学期がとても重要な意味を持ちます。今回は学年ごとに1学期の重要性について語ってみようと思います。

## ①中学1年生「自分の中学校生活の立ち位置を決める1学期」

中学校入学おめでとうございます。新しい環境で「さあ頑張ろう」と気持ちを高めている生徒も少なくないかと思います。勉強においても英語学習が本格的にスタート、算数も数学になります。これまで小学校生活にはなかった定期テストが中学校生活にはやってきます。

そこで学習面でとても大事なのが1学期の中間・期末テストです。

中1の1学期中間・期末はまだテストの難易度も高くありませんので開智のテスト対策に従って必死に頑張れば、小学校時代そんなに高い点数が取れていなかった生徒さんでも十分に高い点数を残すことができます。ここで、高い点数を残す経験ができると、難しくなる2学期以降のテストでもテストの点数を維持しようと頑張ることができます。最初のテストから手を抜くと、「やっぱり自分はこんなもの」と納得してしまい、勉強する意欲を失います。中学校生活から自分を変

えたいという生徒さんはまず、1学期のテストに向けて頑張りましょう。

## ②「化ける」生徒が現れるのが中2の1学期

2年生に入ると学習部では特進クラスと標準クラスに分かれます。標準にまわった生徒たちは「もうあかんわ」と思う生徒さんも多いかもしれません。しかし、長いこと教室長をやっている私はこの時期、特進以上に標準クラスの生徒たちを注目しています。なぜなら、1学期の間に大化けて特進を抜く生徒が現れる時期だからです。必ず若干名「化ける」生徒が現れるので、「今年は誰かな?」とつい注目してしまうのです。中2の1学期中間は前回の学年末より簡単になる傾向が多く、中2にはいって突如ハイスコアを残す標準生が出てきます。ここでハイス



▲自習に取り組む新中3生達

コアを残した生徒はその気になり期末も点数を維持、夏期講習を経て特進へ昇格。というケースを幾度も見てきました。今年は冬から厳しい成績でしたが今年の諸口教室の中2標準も頭角を現し始めている生徒も出てきています。誰が「化ける」のかとても楽しみにしています。

## ③先手必勝の中3勝負はもう始まっている。

中3はいよいよ受験生です。入試説明会でも話しましたが、1学期はアツという間に過ぎ、修学旅行、引退前の部活動に時間が取られ、気が付けば夏が終わり、勝負の秋がやってきます。ほとんどの中3は1学期に力をいれて勉強することができません。というこ

とはまだ志望校に足りていない生徒が自分の前を走る生徒に追いつくためには、みんなが頑張る夏秋よりも、この1学期から頑張ったほうがより短い時間で追いつけることになります。しかし、長い時間を部活動に取られてしまう事実は変わりません。そこで、勉強時間の密度を意識して頑張ってください。1時間で10問より、30分で20問解いたほうが良いです。まず、一日のスケジュールを精査して、自分が集中して勉強できる時間は何時間(何分)あるのか。限られた時間の中でどれだけ密度の濃い勉強ができるかを考え計画を立てることが重要です。そのためには各教室の先生を有効活用してください。難しい問題にトライすることで学力は上がっていきませんが、そのせいで問題の回転数が落ちてしまっは意味がありません。わからないところはむやみに時間をかけずに、積極的に質問し解決させること。先生をうまく利用することこれも技術のうちです。

最後に、充実した学校生活を送るためにもまず大前提として規則正しい生活が大切です。早寝早起き、テスト勉強もテスト期間にまとめるのではなく、少しずつ、テスト期間が始まる前に進めておきましょう。カイチ生がベストパフォーマンスでテストに臨めるよう先生たちは全力でサポートしていきます。2026年度もいい結果で終われるよう一緒に頑張っていきたいと思います!



▲昨年開校した諸口カイコベにて